

永福

令和5年9月29日 杉並区立永福小学校

一人ひとりの成長を支援する

特別支援教育コーディネーター

杉並区の特別支援教育では、就学前から小学校・中学校の9年間について、一人一人の教育的ニーズに応じた切れ目ない支援を行っており、区立特別支援学校や特別支援学級、特別支援教室など、様々な学びの場があります。

「特別支援」の基本的な考え方は「視力が低い子の席を前にする」、「収納ケースにラベリングをして片付けをしやすくする」、「書くことが苦手な子には書く時間を長めにとる」等の個に応じた支援であり、障害の有無に関わらずだれしもが対象となり得るものです。本校では、主に上記のような学級内での支援の他にも、特性に合わせた学び方で、より在籍学級での適応力を高める「特別支援教室」での支援を行っています。本校では「えいふく教室」と呼ばれ、週に一度 $1\sim 2$ 時間在籍学級を離れ、個別や小集団での指導を行っています。子供たちは安心して自分の課題に向き合ったり、得意なことや好きなことに取り組んで自信をつけたりすることができています。

主な指導内容は、①自分も相手も気持ちよく過ごすために、日常の「こんなときどうする?」を題材にした<u>ソーシャルスキルトレーニング</u> ②バランスよく全身や手先を動かし、思考力や集中力を高めることにも繋がる体づくりを行う運動 ③ゲーム的な活動を通して正しい言葉のやり取りを体験的に学ぶ<u>コミュニケーションスキルトレーニング</u> の3つです。授業の様子は担任や保護者の方とその都度共有し、個々の成長や課題をさらに次の指導へと生かしています。いずれも、スモールステップの指導で「できる経験」を積み重ね、それを「自信」につなげていきます。当たり前にできていることも「頑張ったね」「いいね」と褒めることで子供の中に「これは良いことなんだ」という価値づけがされ、「またしよう」という気持ちが生まれます。認められることで自信がつき、苦手に向き合う力も育ちます。また、困難さを感じている時には、先に手を貸してしまうのではなく、上手な助けの求め方を教えてあげることも大切です。「困ったことをよく言えたね」と伝えていくことで自ら解決しようとする力は確実に育っていきます。この援助要請の大切さは、得意不得意は人それぞれ、という考え方と共に2年生の全学級へ「えいふく教室ってどんなところ」という理解教育の授業でも伝えています。

教員間では、日常的に子供たちの情報共有を行い、個々の困り感を適切に把握できるようにしています。さらに、その子の発達特性に応じたより良い支援のために、必要に応じて巡回心理士の助言を受けたり、個別の支援計画や支援シートを作成したりして、児童理解に努めています。そのほか、学習支援教員が週2日、授業の補助や個別指導を行ったり、通常学級支援員や介助員ボランティア等が子供たちのニーズに合わせた様々な支援を行ったりしています。聞くこと・話すことが苦手なお子さんは、「きこえとことばの教室」という他校通級指導学級で指導を受けることもできます。

本校では、お子さんの発達や学習等についてお悩みがある場合は、えいふく教室利用の有無に関わらず、お気軽にご相談できます。また、今年度より、学校公開日にえいふく教室の紹介を行っておりますので、ご興味のある方はぜひいらしてください。

10月の生活目標『友達を大切にしよう』

2学期も2か月目に突入します。学習発表会を来月に控え、そろそろ練習が始まる学年もあるでしょう。 行事に向けての練習、日々の学習、休み時間、学校生活では多くの場面で友達とかかわります。協力し、切 磋琢磨する仲間がいるからこそ、互いに成長していくことができます。しかし、みんなそれぞれ様々な考 えや思いをもっています。ときには自分の思うようにいかないこともあるかもしれません。みんな違うか らこそ友達に対する思いやりや友達の気持ちを理解しようとする姿勢が大切です。まずは友達への小さな 思いやりから大切にして生活していきましょう。